

秋は『読書週間』（10月27日～11月9日）の季節です。

今年の標語は『本と旅する 本を旅する』。

子どもたちに読書の喜びを広げていきたものですね。

「読書」について、こんな「故事・ことわざ」がありました。ウーンナルホド。

## 読書三到（さんとう）

書物をよく理解するには、まず目でよく見、次に口で朗読し、三に心を集中して会得するということ。

## 読書三余（さんよ）

読書に適した三つの時期または時。冬（一年の余り）、夜（一日の余り）、降雨（時間の余り）の三つ。

## 読書尚友（しょうゆう）

書物を読んで昔の賢人を友とする。

## 読書甚解（じんかい）を求めず

書物を読んでも、よくわからない所をむりにわかろうとはしないで、しばらくはそのまましておく。

## 読書の種子（しゅし）

読書・勉学を好む子孫をいう。



## 読書は夜道の案内者

読書することによって、今まで知らなかったことを知り識見をひろめることができるのでいう。

## 読書百編義（ぎ）自（おの）ずから見（あらわ）る

意味のよくわからない所のある書物も百回もくり返して熟読すれば自然と明らかになる。

## 読書亡羊（ぼうよう）

読書に気をとられて、番をしていた羊を逃がしてしまう。二人の者が羊の番をしていて、一人は読書に、一人は博打に夢中になっていて、ともに羊を逃がしてしまったという「莊子」にある故事による》他に気をとられて、本来の任務をおろそかにすることのたとえ。

